

北棟梁町

上棟梁町

西棟梁町

下棟梁町

塗師屋町

南棟梁町

渋谷通

鐘鑄町

妙法院経堂

妙法院

祥雲寺

東瓦町

方広寺梵鐘 (重要文化財)
高さ4.2m、重さ82トンの巨大な鐘
有名な「国家安康 君臣豊楽」の
銘文を見ることができます。



礎石
大仏殿の巨大な礎石
が残されています。

大仏殿

方広寺石塁 (国史跡)
方広寺の正面である
西側を区画する巨大
な石塁。高さ3m、
南北の長さは250m
にも及びます。

石敷き
参拝路の石敷きは
大仏殿に敷かれて
いたものがリサイ
クルされています。

唐門 (国宝)
伏見城の遺構と伝
えられています。

豊国神社宝物館
秀吉の大仏殿が描
かれた「豊国祭礼
図」が展示されて
います。
(重要文化財) (有料)

馬塚 (国史跡)
豊臣家滅亡後に秀
吉を慕う人々によ
って建てられたと
いわれる五輪塔。



鐘撞堂

五条大橋橋脚
博物館の庭園には、
秀吉によって掛け
られた五条大橋の
橋脚が展示されて
います。入館有料。



(楼門)

西門

三十三間堂

養源院

後白河天皇陵

法住寺

南門

南大門

太閤堀 (重要文化財)
蓮華王院を取り込
む形で方広寺の南
を限る築地跡と南
門にあたる。



正面通

耳塚(鼻塚)

(国史跡)
文禄・慶長の役にお
ける朝鮮国の戦没
者を慰霊する塚。



豊臣秀吉関連年表

	西暦	豊臣氏関係	方広寺	聚楽第	伏見城	御土居	その他
永禄10年	1567						10月、東大寺大仏殿炎上
天正10年	1582	6月、本能寺の変 山崎の合戦					
天正11年	1583	賤ヶ谷の戦いで柴田勝家を破る					大坂城築城開始
天正13年	1585	四国平定 秀吉関白となる					
天正14年	1586			2月、造営開始			京の都市改造推進
天正15年	1587	秀吉は太政大臣(従一位) 太閤となる。 九州平定		ほぼ完成			
天正16年	1588		大仏殿造営開始				刀狩り令発布
天正18年	1590	小田原城攻 関東平定し 天下統一					短冊型町割の形成 御所修築 公家町・寺町の形成 三条大橋の架設
天正19年	1591	秀次が関白職を継ぐ	大仏殿立柱式行われる。			築造開始 (約3ヶ月で完成)	本願寺京都へ移転
文禄元年	1592	秀吉、朝鮮出兵を命ずる (文禄の役)			8月、伏見指月に新城の 造営開始		
文禄2年	1593		大仏殿上棟を行う				
文禄3年	1594		大仏ほぼ完成		伏見城完成、秀吉移る		前田利家、秀吉の命 により宇治川に槇島 堤を築く
文禄4年	1595	秀次官職を奪われ高野山 へ、秀次自害	大仏千僧会開始 大仏殿ほぼ完成	聚楽第破却			
文禄5年 (慶長元)	1596	閏7月13日 慶長伏見大地震発生	8月18日大仏供養会予定 も地震で大仏と築地大破		地震で倒壊 木幡山に再建 本丸完成		
慶長2年	1597	朝鮮へ再出兵 (慶長の役)			天守閣完成、秀吉と秀頼 大坂城から移る		
慶長3年	1598	8月18日、秀吉伏見城にて 死去	豊国社の造営開始		秀吉、伏見城で死去		大坂城ほぼ完成
慶長4年	1599		蓮華王院南大門・西大門 および西・南延べ230間半 におよぶ土塀(太閤塀)を 築く				
慶長5年	1600	関ヶ原合戦 東軍(徳川家康)勝利	方広寺大仏殿再建開始。 新たに回廊の建立を始め る		西軍伏見城を攻め城陥落		
慶長6年	1601				伏見城再建		
慶長7年	1602		大仏鑄造中に出火、大仏 殿炎上				
慶長8年	1603	家康征夷大將軍に 江戸幕府を開く			伏見城で家康、征夷大將 軍を宣下受ける		
慶長13年	1608		方広寺大仏殿再建開始。				
慶長15年	1610		6月、大仏殿地鎮祭 8月、立柱式				東大寺仮堂が大風で 倒壊
慶長17年	1612		大仏に金箔が押され、台 座・敷石など大半が完成。				
慶長18年	1613		大仏殿完成				
慶長19年	1614	7月26日、家康が方広寺 梵鐘銘文に異議。 落慶供養延期命じる。 大阪冬の陣	4月、梵鐘完成 8月3日落慶供養予定も延 期				
元和元年	1615	大坂夏の陣。豊臣氏滅亡	豊国社の破却 大仏殿は妙法院が管理				
元和9年	1623				伏見城廃城 天守閣は二 条城へ		
寛文2年	1662		地震により大仏大破 木像に造り替え				
元禄4年	1691						東大寺大仏殿完成
元禄5年	1692						東大寺大仏開眼供養
宝永6年	1709						東大寺大仏殿落慶
寛政10年	1798		大仏殿に落雷し出火、本 堂・楼門・大仏焼失				

方広寺大仏殿跡発掘調査現地説明会資料

2013年11月2日

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

所在地：京都市東山区正面通大和路東入茶屋町地内

調査期間：2013年10月1日～11月15日（予定）

調査主体：京都市

調査機関：公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

1. 調査の経過

今回の調査は、方広寺大仏殿跡の発掘調査です。2000年に行われた発掘調査によって、調査地周辺が豊臣秀吉によって創建された方広寺の大仏殿跡であることが明らかになっていました。今回の調査は、2000年調査地の東隣で実施したもので、大仏殿基壇の東側の状況が明らかになりました。

2. 方広寺の歴史

豊臣秀吉は東大寺の大仏殿に倣って天正16年（1588）に東山に大仏殿の造営を開始します。大仏殿は文禄4年（1595）にほぼ完成し、高さ6丈3尺（19m）の漆膠の大仏（坐像）が安置されていましたが、文禄5年（1596）の大地震によりその大仏は壊れてしまいます。

秀吉の死後、秀吉の子である秀頼が大仏殿の整備工事を行いますが、大仏鑄造途中の出火により全焼してしまいます。その後、秀頼は大仏殿の再建工事に着手し、慶長19年（1614）にほぼ完成します。しかし、開眼供養の直前に徳川家康により、梵鐘の銘文が家康および徳川家を冒瀆したものとみなされ、大坂の役によって豊臣家滅亡を招いたとされています。大仏殿の規模は、史料や発掘調査の成果から、奈良の東大寺大仏殿の規模を上回るものでした。大仏殿は豊臣家滅亡後も残りますが、大仏は寛文2年（1662）の地震で破損、大仏殿も寛政10年（1789）に落雷により全焼してしまいます。

3. 調査の成果

大仏殿基壇東辺 調査区の東端で、秀吉期と秀頼期のそれぞれの大仏殿基壇東辺を確認しました。基壇の化粧石は残されていませんが、抜取痕跡からそれぞれの時期の位置を知ることができました。秀頼期の基壇は、秀吉期の約1m外側に造られており、規模が一回り大きくなっています。

礎石据付穴 大仏殿の礎石を据え付けるための穴です。4基を確認しました。据付穴の平面形は方形で、大きさは一辺約4m、深さ1mあります。据付穴には礎石が沈まないように拳大の石が大量に詰められています。

礎石据付穴は掘り直された痕跡がないことから、秀頼の大仏殿は創建期の礎石をそのまま使ったことがわかりました。現在方広寺の境内には、大仏殿に使われていた礎石が残されており、長辺2.1m、短辺1.5mで、重さは5～6tとされます。

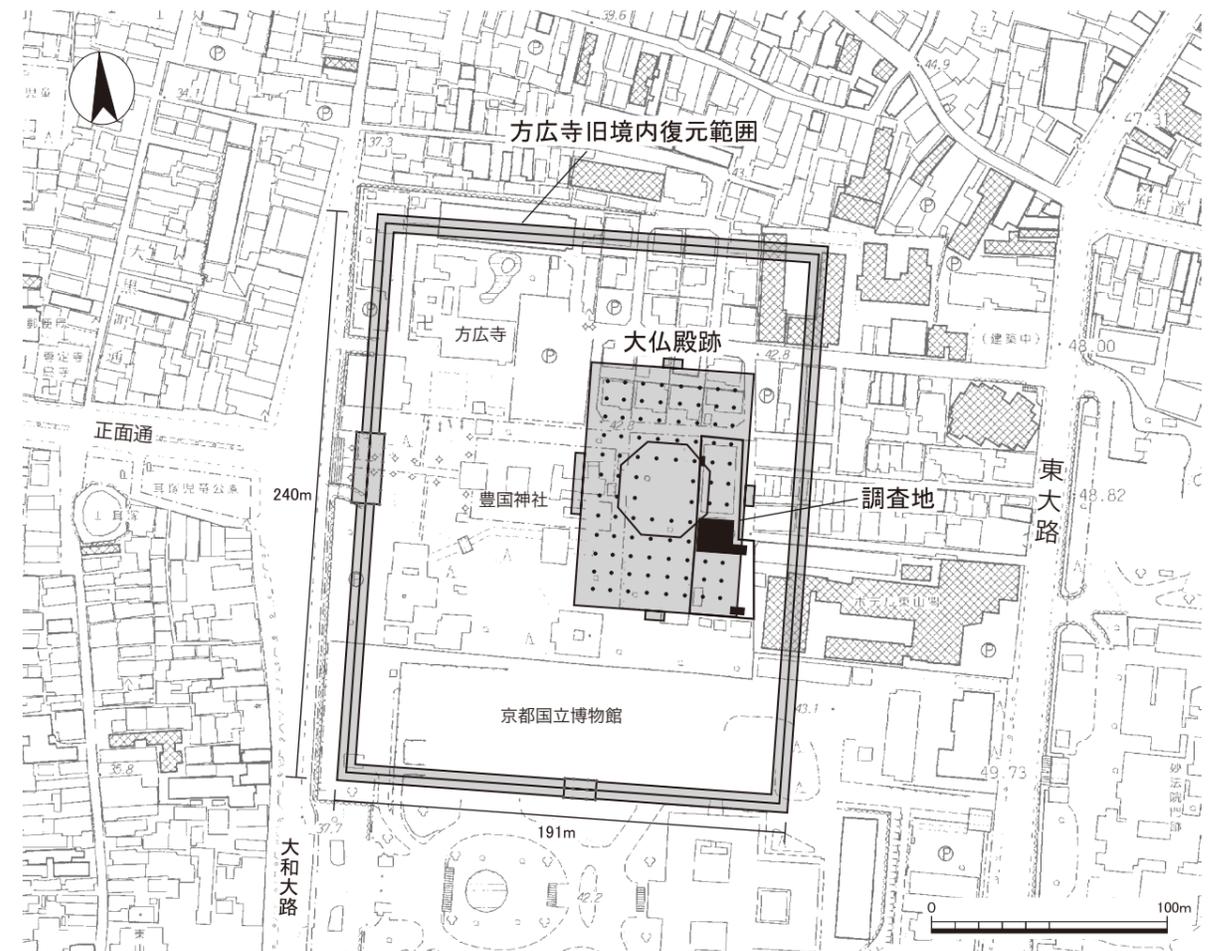
足場柱穴 大仏殿建設時の足場を組むための柱穴です。南北方向の柱穴列を2列検出しました。西側の足場柱穴列2は、東側の足場柱穴列1に比べてやや小さく添柱の可能性があります。柱穴には焼土や焼けた瓦が含まれないことから、秀吉期の足場柱穴の可能性が考えられます。

4. まとめ

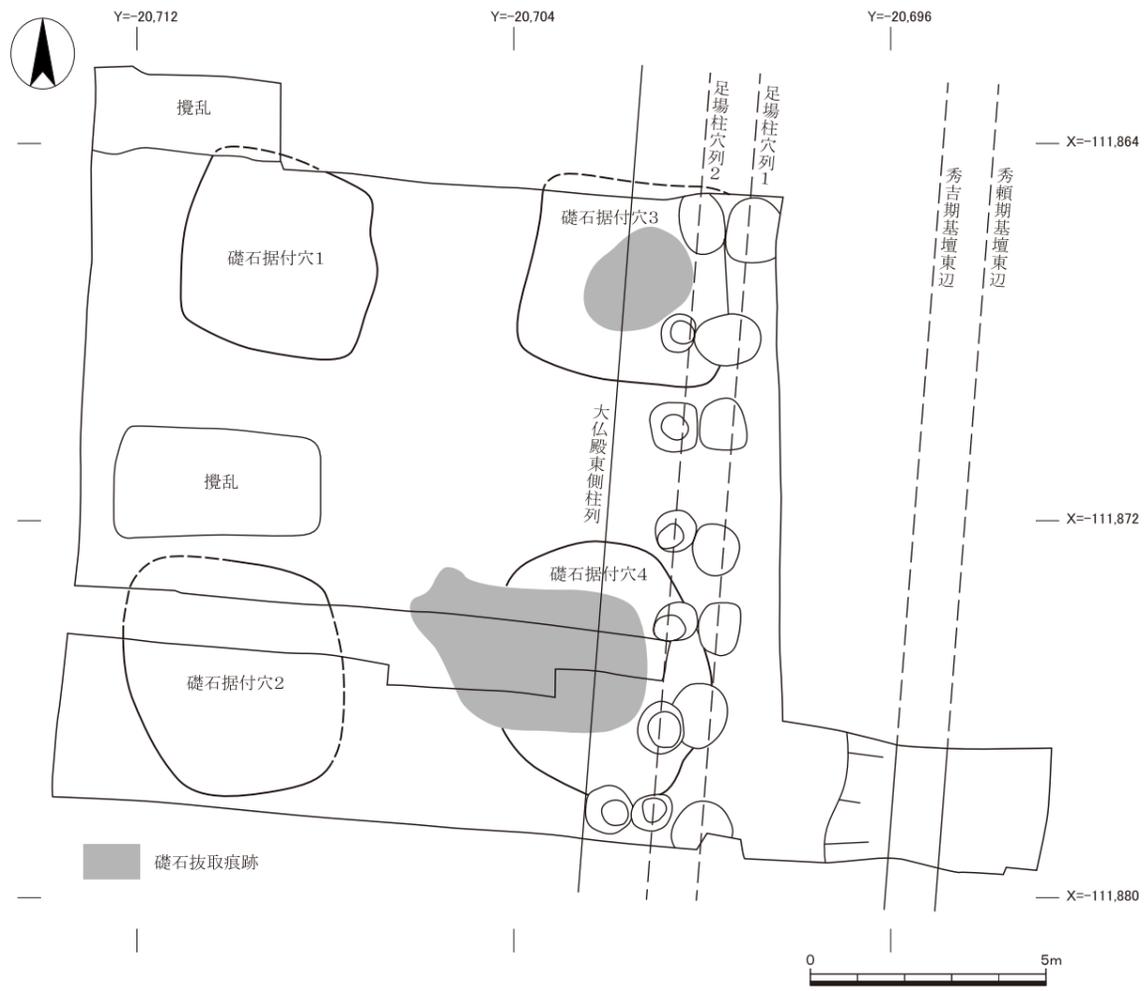
今回の調査で、秀吉期と秀頼期の基壇東辺を確認することができました。秀吉と秀頼がそれぞれに建てた大仏殿の基壇の規模の違いは、2000年の調査でも秀頼期の基壇南辺が1.8m大きくなっていることが確認されていました。今回、基壇東辺も約1m大きいことが確認でき、基壇四周全体を大きくしたと考えられます。今後それぞれの大仏殿規模を復元する上でも重要な発見といえます。また、大小2個セットの足場柱穴を確認したことは、建設工事の様子を考える貴重な材料になると思われます。

方広寺関連略年表

年号	西暦	事柄
天正13年	1585	秀吉、関白となる。
天正14年	1586	東福寺周辺で大仏殿の建立を計画。
天正15年	1587	聚楽第完成。
天正16年	1588	三十三間堂北側で大仏殿工事開始。
天正19年	1591	大仏を金銅仏から漆膠仏に計画変更する。御土居の築造。
文禄4年	1595	大仏殿ほぼ完成する。
文禄5年	1596	大地震により大仏破損。
慶長3年	1598	7月に善光寺の如来が方広寺に本尊仏として到着するが、秀吉の体調悪化により送り返す。8月18日、秀吉伏見城にて死去。
慶長4年	1599	秀頼、大仏殿整備工事を着工。大仏は金銅仏に決定。
慶長5年	1600	関ヶ原の戦い。
慶長7年	1602	鑄造中の大仏より出火。大仏殿炎上。
慶長13年	1608	秀頼、大仏殿再建工事を着工。
慶長19年	1614	大仏殿ほぼ完成するが、「方広寺鐘銘事件」が起きる。
慶長20年	1615	大坂夏の陣、豊臣氏滅亡。
寛文2年	1662	地震のために大仏破損、鑄潰され銅銭に。木像仏に作り替えられる。
寛政10年	1789	大仏殿落雷のため全焼。
天保年間	1830～43	半身像と仮堂が再建される。
明治3年	1870	境内地の多くが国有地となる。
昭和48年	1973	火災により天保大仏が焼失する。



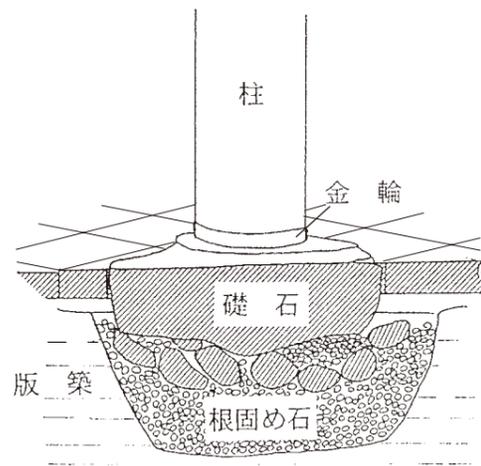
調査位置図(1:3,000)



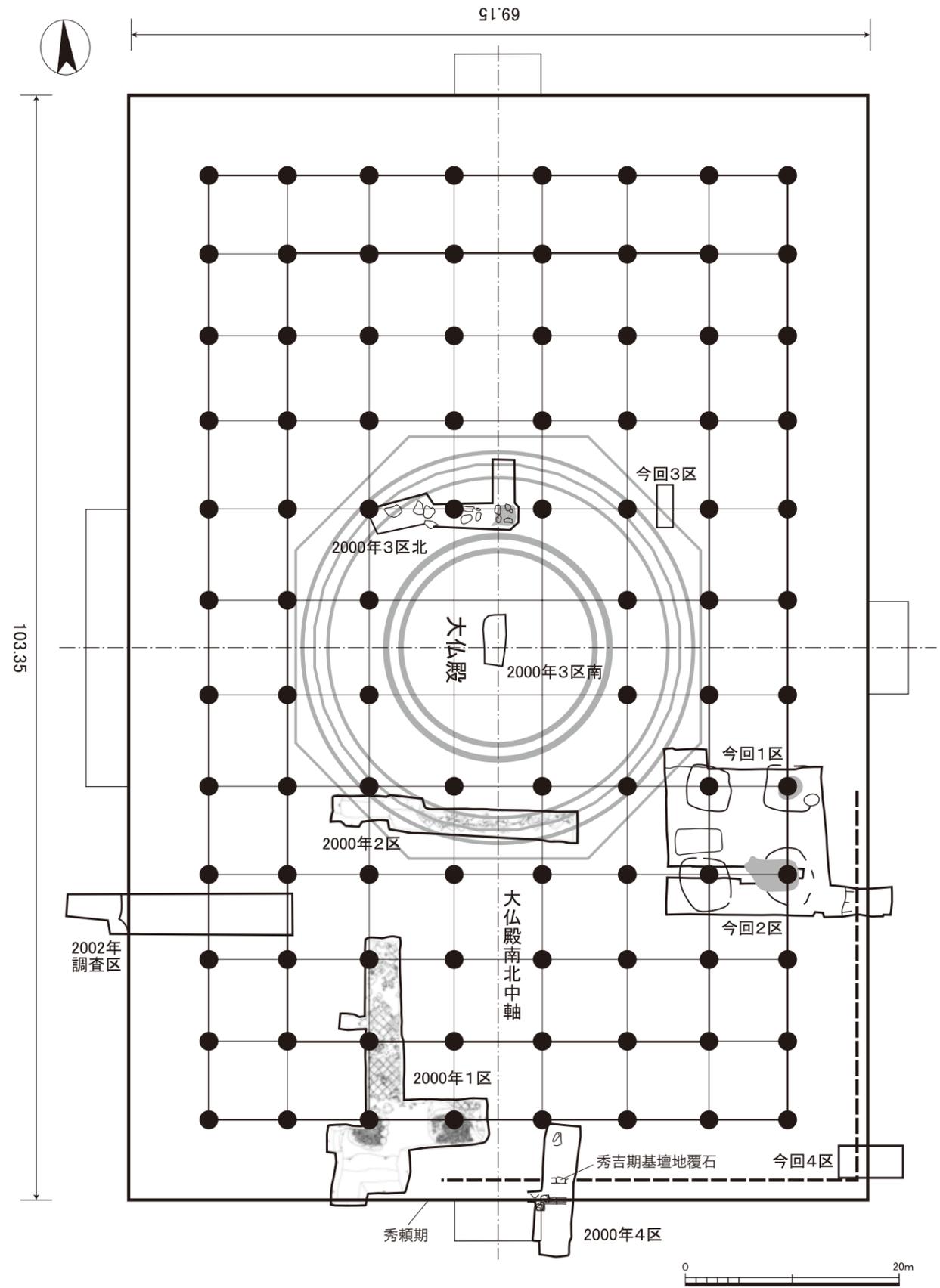
遺構配置図(1:150)



礎石据付穴1(西から)



礎石据付模式図



大仏殿復元位置図(1:500)